

## 血友病患者の免疫機能について

九州大学小児科 宮崎 澄雄

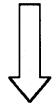
2才から14才までの血友病A患者13名について免疫機能の検査を行なった。いずれも出血や感染のない時期を選んだ。

検査項目は血清免疫グロブリン値の測定, 各種抗原による遅延型過敏皮膚反応, *in vitro*におけるPHA添加培養リンパ球の<sup>3</sup>H-thymidine 摂取率, 好中球機能検査として, Superoxide 産生能, chemotaxis, 貧食能, さらに補体として C3, C4, CH<sub>50</sub> である。

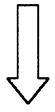
血清免疫グロブリン値は年齢相応の標準値と比較すると, IgG, IgM, IgA ともにほぼ正常範囲内であった。遅延型過敏皮膚反応はいずれも48時間後に判定し, 陽性率は PPD(0.05 μg) が7例中5例(71%), PHA(2 μg) 8例中6例(75%), candida(1:1000) 10例中5例(50%), Streptokinase-Streptodornase(5単位) 10例中8例(80%), mumps 10例中5例(50%)であった。これは健康対照児における陽性率とほぼ一致する成績である。*in vitro*におけるPHA刺激培養リンパ球の芽球化率は6例に行ない, いずれも正常であった。

好中球の殺菌能のパラメーターとなる Superoxide 産生能は cytochalasin E 刺激による cytochrome C 還元能でみると検査を行なった10例は, いずれも正常だった。chemotaxis は agarose plate 法, phagocytosis は E. coli を用いて検査したが, 1例のみ chemotaxis が正常の25%, phagocytosis が正常の30%程度しかみられない5才の症例があった。しかしこの患児には易感染性は認められず, 血清の IgE は増加が認められなかった。補体はいずれも正常範囲内であった。

今回行なった血友病患者は体液性ならびに細胞性免疫機能は正常に保持されており, 1例のみに好中球遊走能と貧食能の低下がみられたが今後追跡の予定である。



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



2才から14才までの血友病A患者13名について免疫機能の検査を行なった。いずれも出血や感染のない時期を選んだ。